

全学学類・専門学群代表者会議 第五回意見聴取会議事内容報告書

作成者：猪瀬百合子

【日時】2018年12月12日

【場所】5C516

【出席】全体 75 定足 38 出席 24 遅刻 3 早退 0

【資料確認】

18267 議事次第

18268 第十回本会議議事内容報告書

18269 全大会の組織に関する特別委員会設立の報告

参考資料 1 特別委員会活動予定

【会議内容】

今回の第五回意見聴取会では以下の議題を扱った。

議題① 全大会の組織に関する特別委員会設立の報告 <議長団>

以上

○四家議長

議題①について、瀬邊さんをお願いします。

○瀬邊

この議案の発案者である。

18269、参考資料 1 をみてほしい。まず参考資料を見て頂ければ分かるが、全大会は人手不足が深刻である。本日も出席は 22、本会議であれば流会である。現に今年度は流会が 3 回ある。これは 2 の①、表 1 に書いた通り、異例の状態である。過去 10 年さかのぼっても 3 回流会した年はない。ということで、まず本会議の成立を何とかしなければいけないという問題がある。それに合わせて、別の観点になるが、総合選抜が平成 33 年度 4 月から実施される。これに向けて総合選抜入学者の意見をどのように取りあげていくかも問題である。したがってこの総合選抜の、座長団の選出方法、また総合選抜の方でもクラス、クラス代表者会議があるので、そちらの運営の方をどうするかも今後検討の必要がある。この 2 つについて検討する際に、やはり構成員の選出方法などいろいろな案を出しながら検討を加えていくというような専門性の高い問題となるので、特別委員会で検討するのが適切だと思うので、この特別委員会を設立させていただきたい。

まず参考資料などを読んでいただいて、その上で質問意見等あればお尋ね頂きたい。

○四家議長

つまり特別委員会を設け、それを大学へ報告したいということである。18269の大学側への資料、また参考資料1を参考にした上で特別委員会の設立に関して質問がある方は挙手をお願いする。

【審議】

○質問：

この時期の資料に関してだが、そろそろ元号が変更となるが、正式な書類の年の表記には十分に注意する必要があると考える。参考資料1の年号の表記が妥当であると思うので、以後もこのようにすべきであるとする。

内容についてだが、まずこの活動内容の1つ目のところに関してであるが、選出に関して意見を取りまとめというのは、どこの意見をどのように取りまとめるのを想定しているのかというのと、また大学と検討を行うという点に関して、具体的に考えているものがあればお願いしたい。(資源十川)

●回答

平成を用いているのは、大学の書類が全てそうになっているためである。変更する必要があるれば改める用意がある。内容に関しては、意見を取りまとめ、という部分の具体的な場所については全代会内の意見を集めようと思っている。根拠としては全代会が各学群から選出されたものであるため、全学の意見に代わるものであるため、ひとまず全代会内で意見を取りまとめ、それを大学と協議するという形である。大学と検討を行うというところであるが、主にクラス代表者会議の制度では、学生だけで決められるものではないし、ここに関しては大学と協議を行い、大学が提示してきた条件も含めて学生としてこのよう意見を持っているというような発信ができればと思っているので、このような形で書かせていただいた。(日日瀬邊)

○質問：

議会の数と流会の数をさかのぼったということであるが、参考資料には5年分しかない。10年分見たのであれば、エビデンスとして10年分載せるべきではないか。(医学宮内)

●回答：

10年並ぶと体系的に不合理化と考えたが、適切でなければ訂正させていただく。

(日日瀬邊)

○質問：

過去何年分のデータをのせるかであるが、このデータだけみると、過去5年の数字が揺れていてたまたま今年3回になっただけともとれるので、10年分のせた方が良い。

(数学五十嵐)

●回答：

今年が異例であると示すため10年分、および流会した数の率などのせたいと思う。

(日日瀬邊)

○質問：

慢性的な人手不足のため流会という事態に陥っているというのが分からない。そもそも流会するのは人数の割合が足りないのが問題であるので、全大会の総数を減らしてやる気のある人だけ残せば、出席率は上昇する。流会を防ぎたいのであれば人数を減らすべきであるし、人手不足を解消したいのであれば人数は増やすべきである。それはどうしたいのか。(応理山元)

●回答：

慢性的な人手不足というのは委員会で起こっている問題で、その問題が会議でも現れているということである。具体的な座長団の構成についてであるが、これについてはまだ検討を行っていない。今後副学懇も踏まえ検討していく必要がある。(日日瀬邊)

○質問：

設立の報告と参考資料の繋がりが見えないのだが、設立をしたいというのは、全大会の現状が組織の体系として間違っているからこのように変えたいということなのか、それとも総合選抜が始まるから変えたいということなのか、どちらが主体であるのか。

(資源十川)

●回答：

現状の課題としてどちらを優先するかについては、直近の問題として総合選抜の方である。ただし総合選抜の検討を進めて現状とシステムを変えずに同じように構成員を入れるという形では現状抱えている流会の多さというような課題を解決できないと考え、この総合選抜の議論を進める際に座長団の選出方法についてもう一度考え直す必要があるのではないかと考えた。(日日瀬邊)

○質問：

人手不足の問題について、本当に組織が悪いために起こっているものなのかという事に疑問を感じる。ただ周知されていないために起こっている問題であるとも考えられるが、その点についてはどう考えるか。(資源十川)

●回答：

過去はこの現状で会議が成立していたので、広報が行き届いていないというような原因もあると思う。これはソフト面での課題であるので別途議論すべきであるが、これだけでは解決しない可能性もあるので、今回はハード面で制度の方ももう一度見直す必要があるのではないかと趣旨である。(日日瀬邊)

○質問：

参考資料とそれに関係して設立の報告についての意見であるが、設立の報告の活動内容 2 つ目「選出方法に関して」に直してほしい。

3 番の活動期間に関して平成 31 年 1 月から平成 33 年 3 月を予定しているとあるが、年度表記でないため平成 33 年度末を持って活動を終了すると捉えられるが、参考資料では「特に入学直後に関してはクラス代表者会議の運営に関して…」とあり入学後も活動するように思われる。(社会菱沼)

●回答：

一点目の指摘に関しては訂正する。二点目に関しては、平成 33 年 3 月というのは総合選抜が始まる前までということである。そこで入学直後の総合選抜者のクラス代表者会議の運営に関してであるが、これは確かに平成 33 年から総合選抜がスタートするが、クラス代表者会議の運営に関する助言をもし定めた場合、これは平成 33 年に限った話ではなく、その後も総合選抜は続くため、その後のサポートの方針を定めるというところまでを目的としているため、平成 33 年 3 月までとした。(日日瀬邊)

○質問：

サポートの方針を決めても、選抜が始まって予期しない問題は起こってくると思う。その時に対応する人は、特別委員だった人がやるのか、それとも前年以前の全代会員が行うのか。(社会菱沼)

●回答：

それに関しては特別委員会が解散した後の話になるが、検討の余地はあるので、持ち帰る。(日日瀬邊)

○質問：

1 点目、参考資料の本会議の出席数に関してであるが、流会を補填するために増えた会もあるため、この数字だけ見て異例の多さとするのは資料として適切ではないのではないのか。また議長団選 1 回を含むというのが流会した会に含まれているがこれは、選挙の結果もう一度選挙をしたために流会したのかと推測できるがこれも語弊のある表現であるので資料として適切でない。数字に対しては具体性を高めるためであるのは承知しているが、こういった誤解や誘導性の高いものは避けて頂きたい。

2 点目、変更案にクラス代表者会議の運営についてもふれるとあるが、クラス代表者会議の内容や方針は大きくかけ離れている。例えば大学説明会をクラス代表者会議で行っているところがあれば、クラ代会でない団体を立ち上げて行っている学類もある。このあたりを画一化するということか。(知識中村)

●回答：

表について、議長団選はそもそも定足の数が違うので、ここは特別に表記しなければそもそも定足割れという事態の説明ができないかと思ったが、語弊がある表記であるので訂正する。

2点目、これは総合選抜のみに関してである。クラス代表者会議で扱う内容は多岐にわたるが、これらについてはこの委員会では取り扱いたいとは思わない。ただ総合選抜入学者については構成員が一年生のみとなるので、ノウハウの伝授がしにくい。そこで全代会としてサポートができないかという意図でこの文言をいれた。(日日瀬邊)

○質問：

総合選抜に対して行うサポートは、すでに学類に所属したものに対しては行わないということか。それとも総合選抜入学者のクラス代表者会議のみ特別視し、その他学類のクラス代表者会議の運営は一任するということか。(知識中村)

●回答：

総合選抜を特別視するという後者の方である。基本的に総合選抜以外のクラスには関与しない方針である。(日日瀬邊)

○質問：

表に関してであるが、流会した回数というのは、人手不足を間接的に表すものでしかないと思う。人手不足を表したいのであれば、会議への出席回数の平均などを資料としてはどうか。(人文寫村)

●回答：

そうさせていただく。(日日瀬邊)

○質問：

参考資料について。この資料は今日全代会員に見せるための資料であるのか、それとも大学に提出するものなのか。(メ創相川)

●回答：

この参考資料は大学に提出することは考えていない。資料に関しては座長団の方が気になる点あると思うので訂正させていただくが、体裁については気にしないでほしい。

(日日瀬邊)

○質問：

ここという人手不足は、常設委員会や特別委員会のものも含まれるか。(応理山元)

●回答：

特別委員会や常設委員会で人手不足が起こっていると考えているが、ここでは常設委員

会などの人手不足については考えていない。(日日瀬邊)

○質問：

会議で人を増やすメリットがあるとは思えない。会議に参加する人を増やしても流会を減らすことにはならないのではないか。(応理山元)

●回答：

これは審議における視点を増やすことが目的である。委任状に関する議論でも取り上げられていることであるが、人が減ると視点が減り、議案の精度が下がることが考えられる。(日日瀬邊)

○質問：

流会というのは出席率という割合であるが、視点についてとこれは関係がない。例えばやる気がない人を増やしても視点を増やすことにはならない。(応理山元)

●回答：

結論からいうとその通りである。あくまで流会の数というのは、会議の適切な進行ができない、また人が足りていないということを表すために用いている。(日日瀬邊)

○質問：

やる気のある人だけがくればいいというのは違うと思う。各学類の代表として集まっている。代表がいないとその学類の意見が大学へ通らないことになる。やる気があれば定数に達して会議ができるというのは理想ではあるが、その他の点にちゃんと全学類でてくれるような仕組みづくりが必要であると思う。(比文楊)

●回答：

指摘の通りである。私としてもやる気の有無のみを単一の指標としているわけではない。全大会の機能としてそれぞれの学類から定数 3 名を募り会議で学類の代表としての意見を発信するという側面があるので、今後選出方法を検討する際に当然必要な議論となる。検討を進めていきたい。(日日瀬邊)

○質問：

議長に対して質問である。これは瀬邊さんが日日副座長として提出したものであるのか、それとも議長団として提出するものであるのか。(人文竹下)

●回答：

確かにタイムテーブルには議長団とある。今回は議長団が座長団一人である瀬邊さんから意見をもらった。扱う価値があると判断し議長団が持つこととした。議長団として大学に提出するが、発案者は瀬邊である。(四家議長)

○質問：

先ほどからクラス代表者会議の運営には手を触れないといっているが、座長団の選出について副学長決定を変更する場合、副学長決定の条文では、選出の主体がクラス代表者会議となっている。クラス代表者会議の意見を得ずに全大会の意向で決めても良いのか。

(人文竹下)

●回答：

先ほどの説明が語弊を招いたかと思う。現存しているクラス代表者会議の運営に関与しないというのは、直接的な運営に関与しないということである。つまり副学長決定の変更により座長団の変更等もあるので、その中で座長団の選出方法も変えるということになれば、当然クラス代表者会議も運営にも絡むので、その点では運営に関与することになる。次にクラス代表者会議の意見を聞かないのかということについては、全大会自体がクラス代表者会議から座長団を選出したものであるので、座長団が各学類の意見を集めてほしい。(日日瀬邊)

○質問：

今の特別委員会は現在の人手不足を問題としていると思うが、もし来年度人手不足の問題が解消した場合、この委員会は総合選抜についてのみ扱うことになるのか。(人文畠村)

●回答：

総合選抜に関してのみ扱うことになる。(日日瀬邊)

○質問：

クラス代表者会議の意見は座長団の方に訊けば成立するということであったが、今現在座長団が来ていないのが問題となっているのに、来ない者がクラ代の代表として意見を述べるという事に矛盾が生じている。(知識中村)

●回答：

確かに矛盾が生じているかと思うが、そもそもクラ代の代表を集めているという性質上、各学類の意見を聞くという話になったときに最も効率がよいのは座長団に話を持ち帰っていただくということであるが、今は答えを持ち合わせていないので今後検討させていただく。(日日瀬邊)

○質問：

今の質問に関してだが、座長団の出席率が低く、一人も来ていない学類もあるが、座長団選出の責任者であるクラス代表者会議の議長を集めて意見をきくといった方法は考えていないのか。(人文竹下)

●回答：

それは座長団の職務を否定してしまうことになるので慎重に考える必要があるが、必要

であれば検討する。(日日瀬邊)

○質問：

活動内容について、2つ目に座長団の定員及び選出方法について方針を取りまとめるとあるが、全代会の制度疲弊は定員と選出方法だけであると考えているのか。例えば委員会を座長団が並行してやるなど、選出や定員以外の問題はないと考えて活動をここに絞っているのか(資源十川)

●回答：

今回の議案に関して全代会の選出や定員に絞ったのは、より専門性を高く、それぞれの問題を検討すべきものとしてこの2つを挙げている。(日日瀬邊)

○質問：

先ほどの指摘に関してだが、現状の問題の一部に限って扱うという事であれば、現在存在しているチームアバウトアテンダンスと並行して行うのか。(化学三浦)

●回答：

チームアバウトアテンダンスの活動は出席率の改善を目的としており、ソフト面での解決を図っている。対してこちらはハード面でのものであるが内容は近いので、連携あるいはチームアバウトアテンダンスの発展については、早いうちに検討したい。(日日瀬邊)

○質問：

先ほどの話に関して、この委員会では全代会の出席人数を問題視し、全代会の制度の改善を目指すという事であれば、制度の改善点としては選出方法に絞って行うということか。他の内容は活動内容に含まれないのか。(比文楊)

●回答：

もちろん他の問題もあると認識しているが、まずは全代会の選出方法に問題を絞って扱いたいと思う。他にも問題が発生した場合には議論するし、広い意見が必要な場合は議長団なども含めて議論する必要がある。そこに関しては委員会内だけで検討を行うというのは適さないため、現在は選出方法のところを中心に扱っているという形である。
(日日瀬邊)

○質問：

ハード面という言葉がどの範囲で使われているかよくわからないが、ハード面での変更というのは選出面での変更のみで、他は検討しないのか。(数学五十嵐)

●回答：

他についても検討する。あくまで中心に取り上げたものが座長団の選出方法というだけである。これ以外にも、ハード面というのは制度面のことであるが、その制度面の方でも

変更が必要で、かつ専門的に対処していくことが妥当と考えられた場合にはこちらの委員会の方で審議をしていこうと思っている。(日日瀬邊)

○質問：

選出以外にも、今おっしゃったことも活動内容として含めた方が良いと思う。

(数学五十嵐)

●回答：

確かに問題を発見するというようなことも活動内容に含めるべきである。(日日瀬邊)

○質問：

1つ目、全大会の組織に関する特別委員会という、組織という部分が重複しているので、名称を検討してほしい。2つ目、この委員会で先ほどからもし定足に足ようになった場合の活動方針や、選出方法だけではないのかという点も含め、これが委員会で行うべきもののなか疑問に思う。委員会は手を広げすぎるのも問題である。制度変更のみに活動をしぼってはどうか。(資源十川)

●回答：

名前に関しては、今後変えていく。2点目についてだが、総合選抜というのが直近の問題であるが、現在の制度について考えるのも効率的であると考えたので、選出方法についてというものも含めた。(日日瀬邊)

○質問：

やはりチームの活動と被る部分もある。人が足りていない現状で2つの組織で同じことをやるのは良くない。またチームの方でもハード面での活動も可能であるので、業務の負担も考えて、活動内容は被らないようにすべきであると思うので、検討してほしい。

(資源十川)

●回答：

似たような組織として特別委員会があるということなので、検討させていただく。

(日日瀬邊)

○質問：

仕事内容に関して議論があったが、選出方法以外にも全大会に関する改善案を考えていくという事だが、その場合どれくらいの人数が必要になるのか。(化学三浦)

●回答：

人数に関しては検討中であるが、話題の範囲を考えた場合、現状の各委員会から1名以上程度の人員があれば効率的に回ると思う。人数としては7名以上となるが、これはまだ検討段階である。(日日瀬邊)

○四家議長

議題①に関する審議を終了する。

【委員会報告】

○議長団：

ランチミーティング、副学懇を行った。今週末に他大学との交流事業がある。土曜日午前
に国際教養大学との交流、日曜終日国際基督教大学、この 2 点についてはまだ参加者を
募っているので、興味がある人は私の方に連絡してほしい。

○総務委員会：

会議準備を行った。

○学内行事委員会：

委員長の選出及び新歓援助金の赤入れを行った。新委員長は竹内くんである。

次期委員長 地球学類竹内：現在全代会では会議に出席する人数を増やそうと努力をして
いる。委員会の方でも業務量は変わらず人が減っていく。学内行事委員会の方でも、残さ
れた人員でどう仕事を回していくか委員長としてしっかり考えたい。タスクマネジメン
トをしっかりやって、仕事を円滑に回していきたい。

○教育環境委員会：

TWINS と manaba に関する公聴会について生活課と協議を始めた。セグロックに関して
調査の依頼があったのでそれについて調査を始めた。

○生活環境委員会：

福利厚生委員会で自販機の 3 社を決定した。

○調査委員会：

調査委員会独自に全代会出席率向上のためのアンケートをつくった。今日一日意見を募
って明日出したい。内容について意見があれば教えてほしい。新委員長も決まった。

次期調査委員長 化学類三浦：来年度以降は調査委員会をいろいろ改善していく。

○広報委員会：

217 号の読み合わせを進めている。218 号の執筆に入った。議長団から依頼された掲示板のタイトルをつくるという話が上がった。紫峰の風の引き継ぎを行っている。次期委員長が軽辺くんに決定した。

次期広報委員長 地球学類軽辺：広報委員会は人が少ないので一人ひとりが背負う業務が多い。それぞれ均等に業務を割り振る、べ切を守るということをやっていきたい。

○新入生歓迎特別委員会：

先週金曜に第 1 回新歓ネットを行った。

○学実委に関する特別委員会：

事前実行計画書に関して、事前予算案を実委との協議の上 1 月を目安に提出してもらう。

これにより事前実行計画書はなくなる。これで概ね学実委に関する特別委員会の業務は積極的に行動すべきところは終わった。

【諸連絡】

○人文竹下

チーム構想のものであるが、自転車の撤去について、全代会の方で積極的に活動しようと思う。年明けにはなるが、会議後などに協力してもらうことになると思うので、その際はよろしくお願いします。

○日日瀬邊

1 年生で来年度全代会に残る人は continue18 に入っていただきたい。

○四家議長

来年度の新歓時期、全代会でも新歓を行う。来年度継続する人の中から新歓担当を決めてほしい。去年は 2 名だった。やりたい人は私まで連絡してほしい。

台湾旅行についてだが、センター休みには行けないことになった。別日に実施する。パンフレットがあるので持って行ってほしい。

今年の会議は今日で終わりとなる。苦しい時期もあったが、よく駆け抜けたと思う。来年は会議が 2 回ある。Slack の方には 3 回分載っているが、3 回目は予備日である。また去年は納会を行ったが、今年も前向きに検討している。予定が空いていたら参加して欲しい。